

第1回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇日時 令和2年5月30日(土) 10時30分～12時30分

◇方法 Zoomによるオンライン会議システム

◇参加者 石田(佐保川小)・石原・新宮(平城小)・篠原(深圳日本人学校)・大川(会社社長)

坂元・山田・岡本・奥平・中野・山崎・金城・亀井・杉本・飯村・古橋・津田・津島・

藤森・前田・石川・福田・木村・松原・藤本・小林・下原・足立・山口・池田千・池田真・

真地・松岡・南本・長谷川・松田・岩城・簗谷(学生)・谷垣(院生)

中澤・米田・大西(奈良教育大) 計42名

◇内容

1. 実践事例検討 「未来に伝えたい『いま』～いにしへから学ぶ～」 石原宏一郎先生

6年生児童が卒業までの意欲を高めるとともに、表現方法の幅を広げるために、万葉集の序詞(じょことば)を隠喩表現の入り口として提示し、各自が卒業に向けての詩を作成する際の参考にさせた。マンダラチャートを活用し、卒業に関わる言葉のイメージをふくらませた結果、無理なく比喩表現を使った作品が完成した。実践を通して、だれもが目にする自然の情景に気持ちを投影させることで、作者の思いがより豊かに伝わるということを実感できた。

- ・小学生に万葉集の理解は難しいので、現代語訳は教師が意識したものを提示した。
- ・卒業に対する一人一人の思いを大切にしたいと考え、マンダラチャートの真ん中には卒業への思いを各自が考えた言葉で表現させた。マインドマップと違って、マンダラチャートはマスとして各場所が整理されているので、児童にとって段階を踏んで思考しやすかったと考える。
- ・1400年の時を経て、今も私たちに伝わる「言葉の持つ力の大きさ」を味わうことができたのでは。
- ・同じ取り組みを3年続けているが、教師自身の単元理解が深まり、学習効果の大きいものになってきている。

2. 卒論途中経過報告 坂元亜衣さん

教科書所蔵万葉集(中学校3年)の変遷調査から

5社の教科書の平成2年度版から現在までのものを対象に、掲載されている万葉集の歌の数、作者別、長く掲載され続けている歌、定番教材などを調査し、分類、考察しようとしている。

- ・万葉集を通して、どのような子どもを育てたいのかを、筆者自身がまず明確にすることが大切ではないだろうか。
- ・掲載されている数も大切だが、掲載のされ方が教科書会社によって違っていたり、同じ歌でも年代によっても変化していたりということがあるのではないだろうか。
- ・ずっと掲載されているような定番教材や作者の歌には、どんな特徴があるのかという視点も、研究できるのではないだろうか。